

兼岩龍二名誉教授及び 宝福則子特認名誉教授記念号の刊行によせて

小樽商科大学長 山 本 眞樹夫

本学人文科学系研究紀要『人文研究』兼岩龍二名誉教授及び宝福則子特認名誉教授記念号の刊行にあたり挨拶を申し上げます。

『人文研究』本輯も、前輯に引き続き複数の名誉教授、特認名誉教授記念号となりました。団塊の世代に属する教員が一斉にご退任されるという事態に、やむを得ず対応させて頂いた結果であり、兼岩先生及び宝福先生には、まず非礼をお詫び申し上げます。

兼岩龍二名誉教授は、1978年3月東京都立大学大学院理学研究科博士課程を単位修得退学され、同年4月本学助教授として赴任されました。1991年、教授に昇任され、2011年から2年間の特任教授の期間を含め、実に35年間の長きにわたり本学にご貢献を頂きました。ご専門は数学、特に数論とお伺いしています。学部では基礎数学、経済数学等のご講義をご担当していただきました。私自身、数学の世界には全くの門外漢ですが、商学部での数学教育を強く意識され、経済分析やオペレーションズ・リサーチ等で用いられる数学をご教授頂きました。

また、ご在任中を通じて、本学学部入試の数学の出題・採点の責任者として、また入試全体の出題・採点の責任者としてご尽力を頂きました。本学入試の生き字引ともいえる、余人に代え難い極めて貴重な存在でした。入試は些細なミスも許されない責任の重い業務であり、教員からは敬遠されがちな業務ですが、兼岩先生には常に快く引き受けて頂き、安心してお任せすることができました。また、私の偏見かもしれませんが、数学研究者には珍しく大学運営にご関心を持たれ、先生の教授会等での審議における的確なご指摘

やご意見は、強く印象に残っています。

宝福則子特認名誉教授は、1982年フィリップス大学（ドイツ連邦共和国）マールブルグ社会科学・哲学部修士課程を修了され、1990年本学助教授として赴任されました。1998年、教授に昇任され、2011年から2年間の特任教授を経てご退任されました。本学在任中の1996年3月から翌年9月までの1年半、ドイツ連邦共和国カッセル総合大学で客員研究員として在外研究を行われています。

ご専門は環境社会学で、学部では社会学Ⅰ、社会学Ⅱ、基礎ゼミナール、現代の社会学等のご講義を担当して頂きました。ご研究においては、特にインタビュー資料の分析に基づくアプローチに特色があり、本誌『人文研究』に11篇にわたり連載した「日常生活史」は特筆に値するでしょう。

本学女性教員の先輩格として、学生相談、ハラスメント問題、ワーク・ライフ・バランス等に積極的に取り組まれ、本学の運営においても多大なご貢献を頂きました。こうした問題への対処にあたり、失礼な表現ですが先生の豪放なご性格と貴重なご意見に大いに助けられました。

いま、改めてお二人の先生の存在の大きさを痛感しています。ご退任後も、名誉教授、特認名誉教授として本学へのご支援、ご協力を賜るよう、どうぞ宜しくお願い致します。